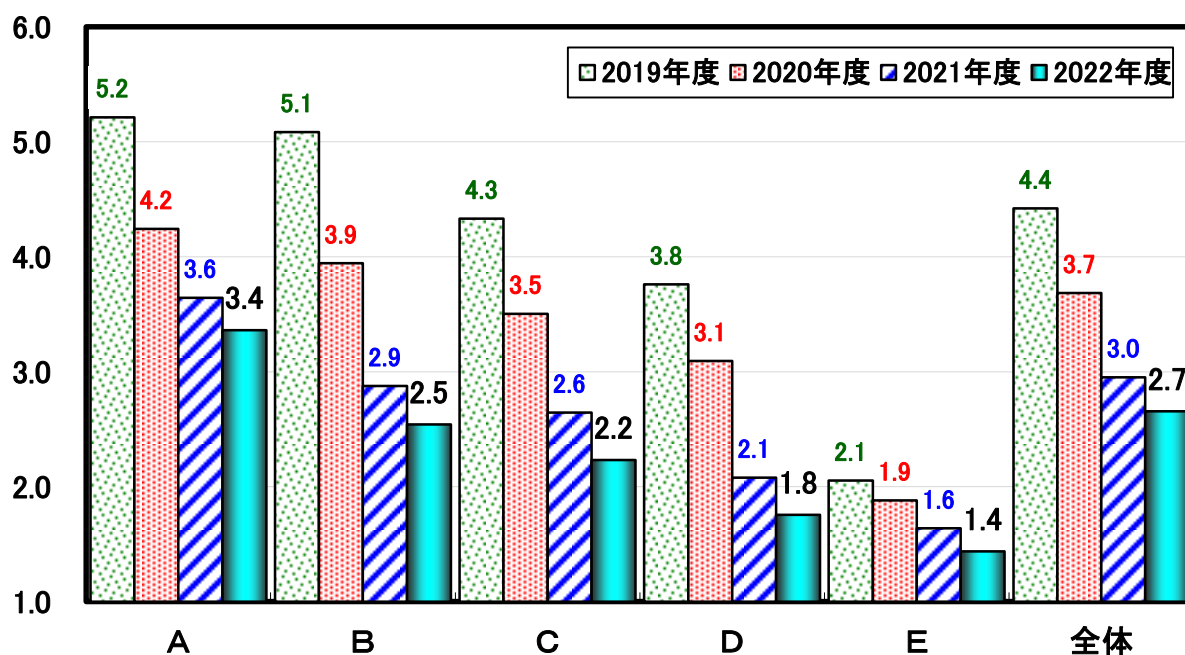


※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎模試合格判定ライングループ別実質倍率

□文系は全グループでダウン



※2022年度基準で2022年度・2021年度を分類
2020年度は2021年度基準、2019年度は2020年度基準

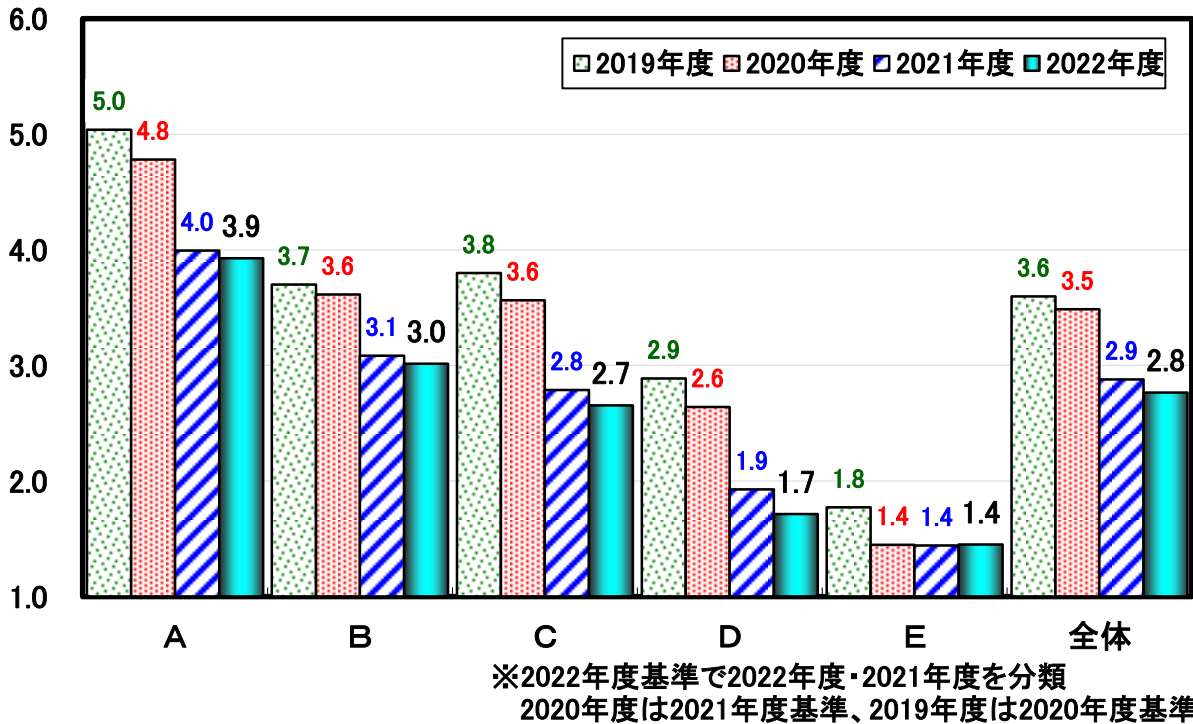
Aグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン65以上
Bグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン60以上65未満
Cグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン55以上60未満
Dグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン50以上55未満
Eグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン50未満

受験者数、合格者数のいずれも判明している募集区分について、学部単位(一般方式と共通テスト利用方式は分ける)で算出した実質倍率を、第3回駿台・ベネッセ共通テスト模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位で5つのグループ(上位Aグループ～下位Eグループ)に分類して3か年分を示したのが上のグラフです。

文系は、全体では3.0倍から2.7倍と0.3ポイントダウンしており、競争ははっきりと緩和しました。グループ別では、A～Eグループ全てでダウンしており競争が緩和しています。特に難関レベルのBグループは、3年間で5.1倍から2.5倍と2.6ポイントダウンしており、文系で最も競争が緩和しているのがわかります。一方で、Eグループは2.1倍から1.4倍と0.7ポイントダウンに留まっていますが、Dグループ・Eグループとも2.0倍を下回りました。

2022年度入試では、コロナ禍での先行不安の継続、経済状況の悪化などから、受験生が自分の実力にあった学校を絞り込んで受験することによる全グループでの競争緩和がうかがえます。

□理系はA～Dグループで競争緩和、Eグループは実質的には「全入状態」



- Aグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン65以上
 Bグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン60以上65未満
 Cグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン55以上60未満
 Dグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン50以上55未満
 Eグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン50未満

理系は、全体では2.9倍から2.8倍と0.1ポイントダウンと、文系よりややダウン幅は小さいものの、競争は緩和しました。

グループ別では、A～Dグループがダウンしていますが、A～Cグループはいずれも前年度比0.1ポイントダウンと文系よりダウンは小さくなっています。一方で、Eグループのみ3年連続1.4倍という低い数値で、実質的には競争がほぼ無い「全入状態」だったことがわかります。

なお、Aグループは、医で補欠合格者数を発表していない大学があり、今後状況が変わる可能性があります。